

# 山王のゴム劣化取替工法

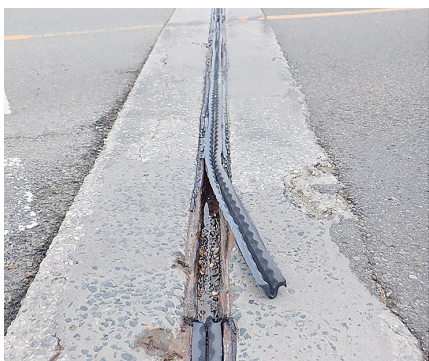
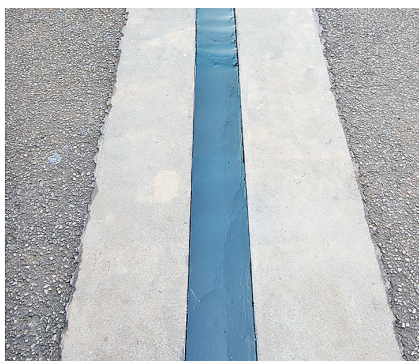
## 国交省 テーマ設定型技術に選定

した伸縮ゴム部を撤去後、樹脂で充填する技術。経済性、施工性、止水性に優れ、環境に優しい工法となっている。

国土交通省では、現場ニーズ・行政ニーズ等に基づき、募集する技術テーマを設定し、民間等の優れた新技術（NETIS登録済み技術含む）を公募。個々の技術の特徴を明確にした資料（技術比較表）を作成し、新技術の活用促進を図っている。今年2月に「橋梁伸縮装置止水部の補修に関する技術」について公募し、3月18日に同社の「ゴム劣化取替工法」など5件を選定。なお同技術の技術公募は、令和3年に第三者機関等として選定された（一財）土木研究センターが実施した。

山王の「ゴム劣化取替工法」は、橋梁用伸縮継手工事において、橋梁伸縮装置の伸縮ゴムの部分を撤去し、新たに伸縮性

【熊本】山王㈱（熊本）市東区戸島西5丁目、深水弘一代表取締役）の「ゴム劣化取替工法」が、国土交通省が技術公募（テーマ設定型）した「橋梁伸縮装置止水部の補修に関する技術」に選定された。同工法は、橋梁用伸縮継手装置の劣化



に優れた樹脂材などを充填する橋梁用伸縮継手補修工法。老朽化した伸縮ゴムのみを取り替えるの

で、装置全体の取り替え工事と比較すると費用を約65%削減できるほか、撤去、設置、養生時間は従来の3割ほどで工期の大幅な短縮が可能。また施工中の騒音、振動、産業廃棄物の排出も大幅に削減できる。などの効果がある。施工手順は①既設ジョイントゴム材撤去②プライマー塗布③バックアップ材設置④充填材料の混合攪拌⑤材料の充填

る。しかしながら、伸縮ゴムは10年程度で損傷し漏水していることを20年ほど前から問題点とされてきたが、今回、国交省で伸縮ゴムの補修性の必要性を認識していた。き、うれしく思っている」と述べる。ともに「今後は新技術の荷重分散型伸縮装置『ジョイント和』にも注力していく。ジョイント和は、荷重分布鋼板により床版に荷重を分布させることで、床版の損傷の軽減を図れ、ゴムだけを取り替え可能な伸縮装置。伸縮装置からの止水を図ることで、支承および本体のコンクリート保全につながり橋梁長寿命化に貢献できると考えている」など話している。

〔写真はゴム劣化取替工法⑥施工後〕